
日本原子力学会 再処理・リサイクル部会

第31回全体会議

2016年 9月 7日(水) 12:20~

久留米シティプラザ H会場

議事次第

再処理・リサイクル部会 第31回全体会議

1. 部会長挨拶
2. H28年度運営体制
3. 同 活動計画
4. 同 活動報告
5. 同 予算計画
6. 部会規約、運営小委員会細則及び部会賞表彰細則
の改定について

部会長挨拶

再処理・リサイクル部会

部会長 藤田 玲子

H28年度運営体制(2016. 9)

	氏名		分担	
部会長	藤田 玲子	(JST)		現在21名
副部会長	森田 泰治	(原子力機構)		
運営委員	渡邊 大輔	(日立)	庶務	
	津幡 靖宏	(原子力機構)	庶務	
	佐藤 聡	(三菱重工業)	会計	
	塚原 剛彦	(東京工業大)	会計	
	林 眞一	(関西電力)	企画	(学会企画セッション, 部会セミナー)
	飯塚 政利	(電中研)	企画	(学会企画セッション, 部会セミナー)
	稲垣 八穂広	(九州大)	企画	(国際WS, ぎんぎんセミナー)
	佐々木 良一	(三菱マテリアル)	企画	(部会セミナー, 国際WS)
	岡村 信生	(原子力機構)	企画	(ぎんぎんセミナー, 部会セミナー、部会HP)
	澤田 佳代	(名古屋大)	企画	(学会企画セッション, 部会セミナー)
	鷹尾 康一郎	(東京工業大)	企画	(学会企画セッション, ぎんぎんセミナー)
	大西 貴士	(原子力機構)	広報	(ぎんぎんセミナー, 部会セミナー)
	<u>夏目 聖久</u>	<u>(日本原燃)</u>	広報	(部会セミナー, ぎんぎんセミナー)
	秋山 大輔	(東北大)	広報	(国際WS, 学会企画セッション)
	大村 恒雄	(東芝)	広報	(学会企画セッション, 国際WS)
	武田 和仁	(東京電力)	広報	(六ヶ所情報, 部会セミナー)
	<u>鎌田 美昭</u>	<u>(日本原燃)</u>	広報	(六ヶ所情報, 部会セミナー)
	野上 雅伸	(近畿大)	広報	(学会企画セッション)
	日山 伸行	(原子燃料工業)	広報	(部会セミナー, 国際WS)

H28年度運営体制(2016. 9)

顧問: 竹内哲夫(元原子力委員), 近藤駿介(元原子力委員長), 田中 知(東京大),
井上 正(電中研) 以上 4名

参与: 野村茂雄, 小山智造, 峯尾英章, 天野 治, 駒 義和, 松村達郎, 小泉 務, 小山真一,
加瀬 健, 梅田 幹(原子力機構), 鈴木一弘, 徳森律朗, 山澤正俊(東京電力),
木地俊太(関西電力), 池田泰久(東工大), 松本史朗(JNES), 田辺哲朗(九大),
山名 元(京都大), 佐藤修彰(東北大), 浅沼徳子(東海大), 鈴木達也(長岡技科大),
大場一鋭, 染谷 浩(三菱マテリアル), 有田裕二(福井大), 森 行秀,
黒田一彦(三菱重工業), 深澤哲生, 星野国義, 鴨志田 守(日立GE), 山田和矢,
多賀純一(東芝), 中村裕行, 齋藤 巖, [坂 宗範](#), [立花武憲](#)(日本原燃), 波多野 守
以上 36名

(所属は運営委員退任時)

H28年度活動計画

年間スケジュール

- 5月16日 運営小委員会 … H28年度活動・予算計画 他
- 7月12日 運営小委員会 … ぎんぎん・部会セミナー企画 他
- 8月22～23日 第8回ぎんぎんセミナー(青森原燃テクノロジーセンター)
- 9月 7～ 9日 2016秋の大会, 第31回全体会議(久留米シティプラザ)
- 9月 8日 運営小委員会(拡大) … 部会セミナー企画 他
- 10月24～27日 ANUP2016国際会議(東北大)
- 11月 運営小委員会 … 国際会議の開催報告 他
- 12月26日 第12回再処理・リサイクル部会セミナー(東工大)
- 2月 運営小委員会 … 部会賞企画 他
- 3月27～29日 2017春の年会, 第32回全体会議(東海大)

- 各WG活動 シビアアクシデント研究WG, テキスト作成WG, 課題議論WG
- その他 秋の大会及び春の年会における企画セッション
第12回 再処理・リサイクル部会賞 候補者募集中
(締切: 1/31, HP参照 <http://www.aesj.or.jp/~recycle/top.html>)

H28年度活動報告

部会ウェブサイトもご覧ください。
<http://www.aesj.or.jp/~recycle/top.html>

第8回ぎんぎんセミナー

- テーマ : 再処理における基礎・基盤技術ならびに廃止措置への応用
(座長:山村 朝雄 東北大准教授)
- 日時 : 2016年 8月22日~23日
- 会場 : 青森原燃テクノロジーセンター(東北町)
- 内容 : 三菱重工、日本原燃、長岡技科大、東北大、原子力機構の研究者、
技術者による講演と討論、及び六ヶ所燃料サイクル施設の見学
- 参加者 : 26名 (うち 学生 7名) 学生には交通費助成を実施



H28年度活動報告

ANUP2016国際会議（仙台, 2016年10月）



Asian Nuclear Prospects 2016

**Nuclear Fuel Cycle for Sustainable
Energy Supply and Human Prosperity**

継続的なエネルギーの供給と人々の繁栄のための核燃料サイクル

2016年10月24日～27日

東北大学 川内萩ホール（仙台市）

ANUP2016では、エネルギー需要増の大きいアジアから、原子力発電を継続的に拡大すること、および燃料サイクルの重要性とそれを実現する原子力技術について議論し発信することを目的とする。原子力エネルギーによる長期的な持続性確保に向けた展望を議論したい。

H28年度活動報告

ANUP2016国際会議



ANUP2016トピックス

1. 原子力エネルギーの展望
- 各国の状況・展望等
2. 原子力利用のための基礎研究
3. 現行燃料サイクルシステム
4. Generation IVの原子炉と燃料サイクルシステム(分離変換技術を含む)
5. 放射性廃棄物管理
6. 核不拡散と安全保障
7. 廃炉と解体:福島第一を含む

主催 : 日本原子力学会
共催 : 中国原子力学会、
韓国原子力学会、
米国原子力学会FCWM部会、
IAEA、東北大学

協賛 : 仙台観光国際協会

スケジュール

拡張要旨募集締切 **2016. 5.31**
受理通知 **2016. 6.30**
早期参加登録締切 **2016. 7.29**
Web登録, 施設見学締切 **2016. 8.31**

開催日程

2016.10.24 ~10.26

基調講演、招待講演、テクニカルセッション

2016.10.27

施設見学(六ヶ所核燃料サイクル施設)

H28年度活動報告

ANUP2016国際会議



● 組織委員会(13名) 第2回(4/5)

委員長 藤田 玲子(JST, 再処理・リサイクル部会長),
副委員長 森田 泰治(原子力機構), 小山 正史(電中研)

● 国際諮問委員会(21名)

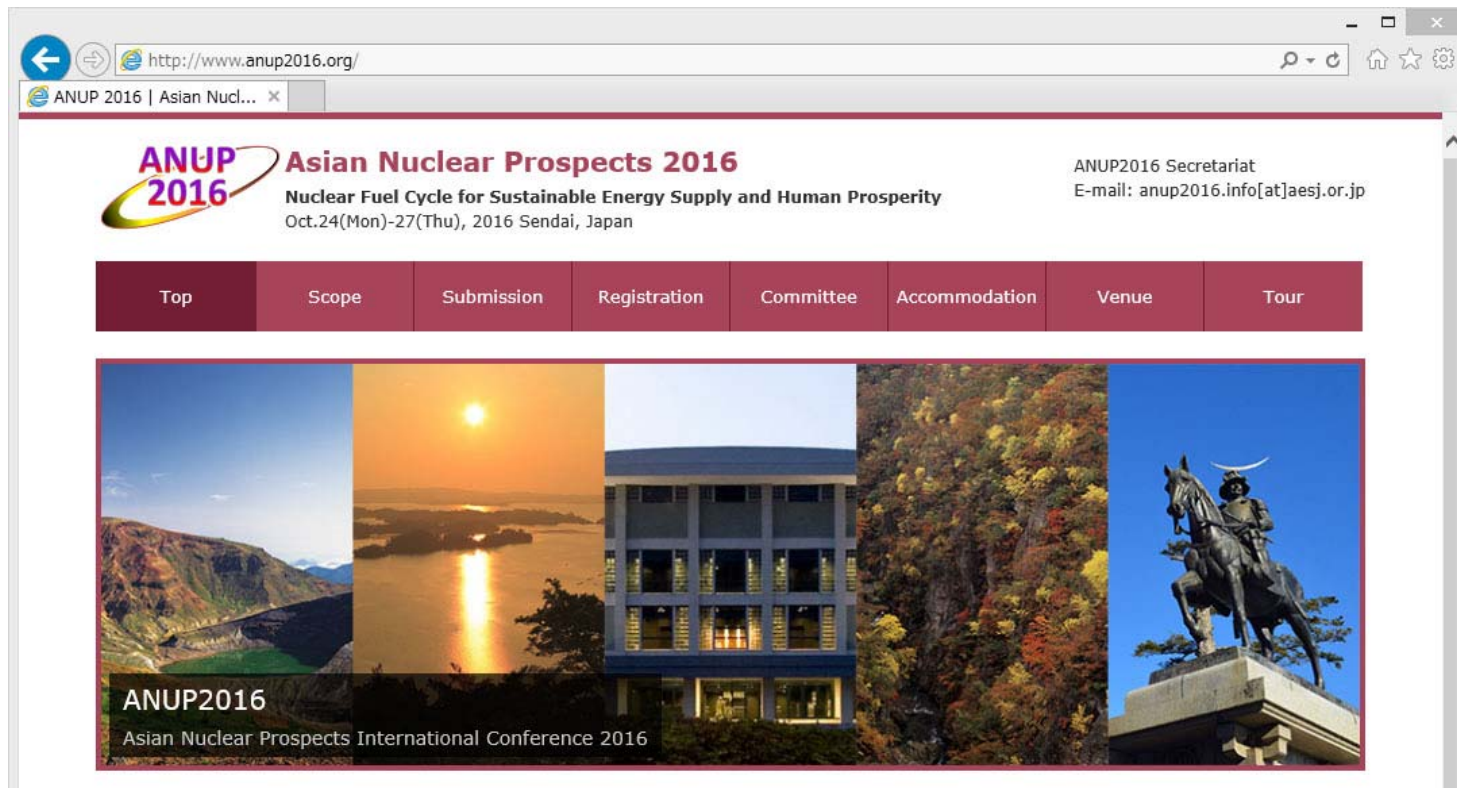
Chair 井上 正(電中研),
Co-chair V. Rao(インド IGCAR), G. Ye(中国 CIAE), G. I. Park(韓国 KAERI)

● 実行委員会(36名)

第5回(5/9), 第6回(6/17), 第7回(8/8), 第8回(9/13予定)

委員長 深澤 哲生(日立GE),
副委員長 小山 正史(電中研), 兼平 憲男(日本原燃)

H28年度活動報告



- 3月～8月にかけてANUP2016ウェブサイトにおいて講演登録、出席登録を実施
- 発表数は基調講演に加えて、技術発表105件(口頭 66件、ポスター 39件)
- 出席者数 約150名を見込む
- 9月現在、プログラム構成、要旨集製作、見学ツアー調整等を実施中
- 仮プログラムを ウェブサイトで公開中 <http://www.anup2016.org/>

シビアアクシデント研究WG

- WG主査 池田 泰久(東工大), 副主査 村松 健(東京都市大)
- 第1フェーズで抽出された課題を検討すべく、2015年4月より第2フェーズとして、再処理施設で発生が想定し得る事故の影響評価方法に関する現状整理、課題の把握及び解決方法について、客観的かつ専門的視点から検討を開始している。
- 検討対象とする再処理施設に関わる事故事象
臨界、蒸発乾固、放射線分解水素の爆発、有機溶媒火災、
使用済燃料の著しい損傷、その他の事故
- 設計基準～低頻度・大影響の事故シナリオまで広く対象とし、各事象に関連する実験、解析評価について既往研究を調査し、情報共有。事象ごとにサブWGによる検討をすすめている。
- このあと 秋の大会 企画セッションにおいて講演と討論を予定。
- ANUP2016国際会議においても講演を予定。

H28年度活動報告

テキスト作成WG

- WG主査 吉田 善行((株)アトックス)
- 学会という中立・公正な立場で燃料サイクルに関する最新技術の解説を主としたテキストを作成する。Phase I に引き続き、核燃料サイクル技術の詳細及び最近の技術動向を網羅する Phase II の活動を進めている。
- Phase II 2015年度HP掲載内容
 - ・1-9 世界の核燃料サイクル政策 後日掲載
 - ・7-5 直接処分 掲載済
 - ・8-1 分離・変換の意義 掲載済
 - ・8-2 分離・変換技術 掲載済
 - ・8-3 ADS燃料サイクル 掲載済
 - ・8-5 金属燃料高速炉による核変換 掲載済
 - ・9-1 福島廃炉に伴い発生する廃棄物の種類と量 掲載済
 - ・9-2 重大事故時に発生する汚染水の処理 後日掲載
- WGの活動状況の詳細は下記サイトでお知らせしています。
<http://www.aesj.or.jp/~recycle/nfctxt/nfctxt.html>

H28年度活動報告

課題議論WG

- WG主査 鈴木 達也(長岡技科大)
- 現在の日本の再処理あるいはもっと大きな視点で、核燃料サイクルが抱える課題を明確にすると共に、再処理あるいは核燃料サイクルのあるべき姿を議論し、学会として社会に提言すべく活動を行っている。
- 「原子力全体を見たときに、再処理の持つ役割は何か？」
 - ・核エネルギーの必要性
 - ・原子力には課題があるという認識
 - ・サイクルの中での再処理の位置づけ
 - ・エネルギー資源の有効利用と環境負荷低減
- 議論の内容を、再処理リサイクル部会セミナーで紹介、あるいはポジションステートメントとして、社会に対し発信することを目指している。
- 課題議論WGでは、議論をする中で、再処理のミッションの再定義が必要ではないかとの結論に達し、現在、再定義の作業を行っている。

H28年度活動報告

「燃料デブリ」研究専門委員会

- 委員会主査 山中 伸介(大阪大) 第1回会合 7/15
- 原子力学会 各部会(核燃料、炉物理、水化学、再処理リサイクル、バックエンド、熱流動、材料、安全)より委員を集め、28年度に発足
- 燃料溶融や燃料デブリに関しとりまとめた知見と核燃料の観点からの見解
- 燃料デブリの処置、臨界、線量評価などの廃止措置関連分野からのニーズも考慮した課題と提言
- 27年度 デブリの形成過程(事故進展)とデブリ性状に関する議論
R&Dの現状調査、情報共有
- 28年度 1F廃止措置やシビアアクシデント研究への反映を目的として「デブリ研究」の課題整理と提言
タスクチームでの議論、情報発信

H28年度活動報告

福島特別プロジェクト クリーンアップ分科会

- 分科会主査 井上 正(電中研)
- 放射性物質による環境汚染の修復が速やかに進むため、専門家集団としてその活動に積極的に協力すること。
- フォーラム、シンポジウム、地域集会などを通じて正しい知識を持って除染や放射線に対する住民の疑問に答えること
- H23～26年度の活動を日本原子力学会誌 **ATOMOS 7月号**に報告
日本原子力学会, 原子力学会活動の総括と課題 東電福島第一事故から5年を経て,
日本原子力学会誌, 58, 2016, pp. 390 - 399.
- H28年度も引き続き、
JAふくしま未来の協力のもと水稻栽培試験を継続
除染情報プラザ(福島市)への専門家派遣を継続(除染アドバイザー)
- **本大会3日目(9/9) 福島特別プロジェクトセッションにおいて講演を予定**

H28年度活動報告

福島特別プロジェクト クリーンアップ分科会

- 原子力学会シンポジウム「福島の明日を見つめる ～みんなで考える 除染・帰還・復興～」 2016年 7月23日(土) いわき産業創造館

特別講演 「被災地からの脱却を目指して」 川内村村長 遠藤 雄幸

「福島における避難指示解除と本格復興に向けて」 内閣府 武藤 寿彦

「福島の環境回復の状況について」 環境省 福島環境再生本部 小沢 晴司

「福島の除染対策について」 福島県生活環境部 鈴木 宏孝

「除染・帰還・復興に関する見解」 福島特別プロジェクト 井上 正

パネルディスカッション 「除染特別地域の復興に向けて」

ファシリテーター 福島特別 Pj 布目 礼子、

パネリスト 各講演者、福島特別 Pj 飯本 武志、藤田 玲子

(敬称略)

ウェブサイトもご覧ください。 http://www.aesj.net/activity/activity_for_fukushima/fukushima_project

H28年度活動報告

福島特別プロジェクト クリーンアップ分科会

日本原子力学会 「除染・帰還・復興に関する見解」 2016年 8月25日

【震災後5年をふまえ、以下の6項目のテーマについて見解を公表】

- 帰還住民の個人線量の調査、きめ細やかな情報提供
- 帰還困難区域の取扱いを見直し将来見通しを示す時期がきていることから、区域の詳細モニタリングによる線量率マップ作成、住民と自治体への情報提供
- 住民の要望に応えるきめ細かな除染 里山の除染、進捗情報の提供
- 廃棄物中間貯蔵の安全対策 輸送量低減のための減容等合理的な処理方策の検討 輸送・貯蔵の作業の安全確保、事故時対策、最終処分の検討
- 放射線に関する正確な情報の継続的発信 相談員制度の活用 自治体間の情報共有 浜通り地域への除染、廃炉に関する情報拠点の設置
- 市町村・県・国が一体となった積極的な復興計画 教育・就業の場、医療・介護、移動手段の確保、商業施設、産業の誘致、地域をリードできる将来世代の養成

H28年度予算計画

	項目	予算(円)	前年度計画(円)	比較増減(円)	内 訳
収入の部	収入				
	一般正味財産				
	1. 本部予算(配分金)	270,000	250,000	20,000	
	2. 独自事業予算	1,500,000	1,500,000	0	部会セミナー、ぎんぎんセミナー参加費
	指定正味財産				
	3. 繰越金取崩 収入	3,832,000	2,840,000	992,000	余剰繰越金から
	収支 計	5,602,000	4,590,000	1,012,000	
支出の部	支出				
	1. 本部予算(配分金)				
	・ 旅費交通費	3,550,000	2,550,000	1,000,000	企画セッション講師旅費、福島特別PJ活動旅費、学生渡航費補助、WG委員旅費、ANUP2016委員会委員旅費
	・ 通信運搬費	60,000	3,000	57,000	
	・ 消耗品費	0	0	0	切手、宅急便
	・ 一般外注経費	0	0	0	
	・ 諸謝金	40,000	485,000	-445,000	企画セッション講師謝金
	・ 雑支出	52,000	52,000	0	部会賞副賞、振込手数料
	・ その他	500,000	0	500,000	ANUP2016負担金
		4,202,000	3,090,000	1,112,000	
	2. 独自事業予算				
	・ 会議費	720,000	700,000	20,000	部会セミナー・ぎんぎんセミナー
	・ 旅費交通費	200,000	350,000	-150,000	部会セミナー・ぎんぎんセミナー講師旅費
	・ 通信運搬費	13,000	20,000	-7,000	宅急便・郵便
	・ 消耗品費	15,000	20,000	-5,000	
	・ 一般外注経費	230,000	320,000	-90,000	セミナーテキスト作成費
	・ 出展費	50,000	0	50,000	マイクロバス
	・ 諸謝金	140,000	60,000	80,000	セミナー講師謝礼
	・ 雑支出	32,000	30,000	2,000	セミナーポスター賞副賞、振込手数料など
		1,400,000	1,500,000	-100,000	
	支出 計	5,602,000	4,590,000	1,012,000	
	本部予算収支戻	-3,932,000	-2,840,000	-1,092,000	
	独自事業予算収支戻	100,000	0	100,000	
	予算収支戻	0	0	0	
2017年度への繰越金(指定正味財産)			5,507,294		

部会規約等の改定について

- (1) 再処理・リサイクル部会規約
- (2) 再処理・リサイクル部会運営小委員会細則
- (3) 再処理・リサイクル部会 部会賞表彰細則

なお、規約類の文言の細かな点、空欄部分について、今後学会事務局との調整が入る可能性があることをご了解頂きたいと思っております。

(1)再処理・リサイクル部会規約について

要承認

再処理・リサイクル部会規約

平成 年 月 日 第 回再処理リサイクル部会全体会議承認

(目的)

第1条 本規約は、組織規程(0103)第5条ならびに部会規程(1002)に基づき設置する再処理・リサイクル部会の組織・運営について定めることを目的とする。再処理・リサイクル部会(以下、「部会」という)は、再処理またはリサイクルに関する研究もしくはそれらの進展・普及等に関する研究・調査活動を支援することにより、再処理およびリサイクルの発展に貢献することを目的とし、設置する。

(運営)

第2条 部会は、その運営および主要な事業について、部会等運営委員会を経て理事会に報告する。

(1)再処理・リサイクル部会規約について

要承認

(事業)

第3条 本部会は、その目的に基づき、以下の事業をおこなう。

- (1) 定期的に、「部会報」を発行し、部会員の相互交流を深めるとともに、再処理に関わる国内外の情報伝達を図る。
- (2) 研究会、セミナー、講演会、講習会、見学会等を適宜開催する。
- (3) 再処理等に関わる国内外の関連学協会、諸機関と連絡をとり必要に応じて研究会等を共催する。
- (4) 部会の活動に関連する他部会、研究専門委員会、特別専門委員会等の活動に積極的に協力する。
- (5) 研究、調査および評価等のためのグループを組織して、研究者間の交流と関連分野の研究活動を支援する。また、影響の大きい研究成果等に対しては学術研究的立場からの第三者評価をおこない、国民社会の科学的な認識の向上・啓発に資する。
- (6) 日本原子力学会の年会大会、部会の関与に関する研究会等で発表された部会員の再処理等の研究に関する優秀な論文等について、学会誌への投稿を積極的に激励する。
- (7) その他、適切な事業を適宜実施する。

(1)再処理・リサイクル部会規約について

要承認

(会員資格)

第4条 正会員および学生会員は部会員となる資格を有する。

(部会費)

第5条 部会に参加を希望する会員は、学会事務局に所定の手続きをおこなうとともに、会員管理内規(0000-01-01)にしたがって部会費を納入する。なお、退会の際はその旨を学会事務局に申し出る。

(運営組織)

第6条 部会の運営にかかわる重要事項を審議決定するため運営小委員会を設置する。運営小委員会は部会長1名、副部会長および運営委員若干名によって構成される。部会長および運営委員(副部会長含む)は部会員の中から部会員の直接選挙で選ばれる。部会長および運営委員(副部会長含む)の選挙にあたっては、部会長の指名する選挙管理小委員会を設ける。運営委員の任期は4月から翌々年3月までの2年間とする。ただし再任を妨げない。

第7条 組織運営のため、運営小委員会の他に、小委員会を設けることができる。
2 各委員は、部会長が委嘱し、その状況を必要に応じて部会等運営委員会へ報告する。

(1)再処理・リサイクル部会規約について

要承認

(部会全体会議)

第8条 部会全体会議を年1回以上開催し、次の事項を審議する。

- (1) 活動計画および予算
- (2) 活動報告および決算
- (3) 運営体制
- (4) その他、重要な事項

(運営費)

第9条 **部会**は、部会配布金、事業収入、賛助金をもって運営することを基本とする。

- 2 賛助金等小額の外部入金で実施する活動の開始にあたっては、企画委員会での審議を必要とする。また、外部入金の定率を本部管理費として日本原子力学会に収める。

第10条 運営費の予算、決算については、部会全体会議で審議し、部会等運営委員会および理事会の承認を得る。

(1)再処理・リサイクル部会規約について

要承認

(改定)

第11条 本規約の改定は、再処理・リサイクル部会運営小委員会が起案し、再処理・リサイクル部会全体会議の承認を得たのち、部会等運営委員会および理事会に報告するものとする。

(下部規則)

第12条 本規約に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会が別に定める。

附則

- 1 平成22年10月1日 第512回理事会改定、同日施行
- 2 改定履歴
 - ① 平成13年3月21日 第431回理事会，研究部会決定
 - ② 平成15年5月 改正
 - ③ 平成22年10月1日 第512回理事会改定
 - ④ 平成 年 月 日 第 回再処理・リサイクル部会全体会議承認，平成 年 月 日 第 回部会等運営委員会報告，平成 年 月 日 第 回理事会報告

附則

- 1 平成 年 月 日承認の規約は、再処理・リサイクル部会全体会議承認の日から施行する。

(2) 運営小委員会細則について

要承認

再処理・リサイクル部会運営小委員会細則

平成 年 月 日 第 回再処理・リサイクル部会全体会議承認

(目的)

第1条 本細則は「再処理・リサイクル部会規約」(1002-14)第1条, 第3条および第6条に基づき, 再処理・リサイクル部会(以下, 「部会」という)内に設置する運営小委員会の構成および運営委員の選任方法について定めるものである。

(構成)

第2条 運営小委員会は部会長と部会長以外の運営委員約20名で構成する。

2 運営小委員会は, 以下の各号に掲げる担当運営委員を設ける。

- | | |
|------------------------|--------------|
| (1) 部会長 | (5) 広報担当委員 |
| (2) 副部会長 <u>(2名以内)</u> | (6) 会計担当委員 |
| (3) 庶務担当委員 | (7) 会計監査担当委員 |
| (4) 企画担当委員 | (8) 幹事 |

(運営小委員会が必要と認めた場合に幹事を置くことができる)

3 部会の運営を支援するため, 部会長経験者を顧問, 運営委員経験者を参与とする。

(2) 運営小委員会細則について

要承認

(任期)

第3条 運営委員の任期は2年として留任は妨げない。

2 任期途中で運営委員を追加または交代する場合には、候補者を運営小委員会にて審議したのち、部会員または部会全体会議に報告して了承を得る。新たに選任された運営委員の任期は他の委員の残りの任期と同じとする。

(選挙)

第4条 運営委員の選任をおこなうため、部会員による選挙をおこなう。

(選挙管理小委員会)

第5条 選挙を公正に執行管理するため、部会に選挙管理小委員会を置く。

2 小委員会は、適切な時期に選挙管理小委員会を発足させねばならない。

3 選挙管理小委員会は、次の各号にあげる委員によって構成し、運営委員の選挙に必要な業務をおこなう。

(1) 選挙管理小委員会委員長 1名

(2) 選挙管理委員 2名

4 選挙管理小委員会委員長は運営委員の互選により選任し、選挙管理委員は選挙管理小委員会委員長が部会員から選任する。

(2) 運営小委員会細則について

要承認

(候補者の推薦)

- 第6条 運営委員の候補者は、部会員であって他に部会員2名以上が推薦する者とする。ただし、候補者が定員に満たない場合は運営小委員会が推薦する者も候補者とする。
- 2 運営委員の候補者の推薦は、部会長候補者と部会長以外の運営委員候補者に分けておこなう。
 - 3 選挙管理小委員会委員長および選挙管理委員は、運営委員の候補者になることができない。

(選挙方法)

- 第7条 選挙は、部会長候補者と部会長以外の運営委員候補者に対してそれぞれ信任投票方式で、はがき、電子メール等による投票方法でおこなう。
- 2 部会員は候補者に対して、信任票、不信任票、棄権票のいずれかを投ずる。
 - 3 部会員が候補者に対して、不信任票および棄権票のいずれも投じない場合は信任票を投じたものとする。
 - 4 信任票の多い候補者を順に当選者とする。
 - 5 部会長以外の運営委員の役割は、運営委員間の互選により決定する。

(2) 運営小委員会細則について

要承認

(選挙結果の報告)

第8条 選挙管理委員長は、運営委員の選挙後、その結果をすみやかに部会員ならびに部会全体会議に報告しなければならない。

(担当運営委員)

第9条 本細則に関し、選挙管理小委員会の発足その他について、主に庶務担当運営委員が発議の任にあたる。

(例外処理)

第10条 本細則および関連する規則類に定めのない事態が生じたときは、運営小委員会あるいは選挙管理小委員会は、関連する規則類の趣旨を尊重して適切な措置を取ることができる。ただし、部会全体会議に報告し、その了承を得なければならない。

(改定)

第11条 本細則の改定は、再処理・リサイクル部会運営小委員会が起案し、再処理・リサイクル部会全体会議の承認を得たのち、部会等運営委員会および理事会に報告するものとする。

(2) 運営小委員会細則について

要承認

附則

- 1 平成24年3月21日 第22回再処理・リサイクル部会全体会議制定, 同日施行
- 2 改定履歴
 - ① 平成15年6月9日 「再処理・リサイクル部会内規」として第5回部会総会制定
 - ② 平成19年3月28日 第13回部会総会改定
 - ③ 平成24年3月21日 学会管理の内規に変更。第22回再処理・リサイクル部会全体会議制定
 - ④ 平成26年9月9日 第27回再処理・リサイクル部会全体会議承認, 平成27年2月26日 部会等運営委員会メール報告, 平成27年3月18日 第7回理事会報告
 - ⑤ 平成 年 月 日 「再処理・リサイクル部会運営小委員会細則」に変更
第 回再処理・リサイクル部会全体会議承認, 平成 年 月 日 第 回
部会等運営委員会報告, 平成 年 月 日 第 回理事会報告

附則

- 1 平成26年9月9日承認の内規は, 再処理・リサイクル部会全体会議承認の日から施行する。
- 2 平成 年 月 日承認の細則は, 再処理・リサイクル部会全体会議承認の日
から施行する。

(3) 部会賞表彰細則について

要承認

再処理・リサイクル部会 部会賞表彰細則

平成 年 月 日 第 回再処理・リサイクル部会運営小委員会承認

(目的)

第1条 本細則は「再処理・リサイクル部会規約」第1条，第3条ならびに「部会・連絡会・支部表彰制度規程」(0110)第1条に基づき，再処理・リサイクル部会部会賞（以下，「部会賞」という）について定めることを目的とする。

(趣旨)

第2条 原子力における再処理・リサイクル分野の発展や進歩をうながすことを目的として，この方面において顕著な貢献をした個人またはグループに対し，部会賞を贈呈する。

(3) 部会賞表彰細則について

要承認

(表彰の種類)

第3条 部会賞に下記賞を設ける。

- (1) 再処理・リサイクル部会功績賞：再処理・リサイクル分野において幅広くかつ顕著な貢献のあった個人が対象。
- (2) 再処理・リサイクル部会業績賞：再処理・リサイクル分野において顕著な学術または技術上の業績のあった個人またはグループが対象。
- (3) 再処理・リサイクル部会優秀講演賞：再処理・リサイクル分野に関する、学会または再処理・リサイクル部会が主催もしくは共催する行事での優れた口頭発表、ポスターセッションでの発表が対象。2 部会賞受賞者は、原則として再処理・リサイクル部会員とする。ただし、学生については、部会員であることを要しない。

(表彰小委員会)

第4条 部会賞選考のために、再処理・リサイクル部会表彰小委員会（以下、「表彰小委員会」という）を設置する。

- 2 表彰小委員会委員長は部会長の指名により、部会全体会議（電子メールでの会議も含む）もしくは運営小委員会において承認する。
- 3 表彰小委員会委員は表彰小委員会委員長が選任し、部会運営小委員会において承認する。ただし、委員名は公開しない。

(3) 部会賞表彰細則について

要承認

(選考手順)

第5条 部会賞選考手順については以下に定める。

- 2 表彰小委員会は部会メーリングリストおよび部会ホームページに公告し、毎年度4月1日から1月31日までの期間、受賞候補者の推薦を求める。
- 3 部会員は自薦または他薦により受賞候補者を推薦することができる。
- 4 部会員は受賞候補者を推薦する場合、授与すべき部会賞の種類、推薦理由等を記載した推薦書1通を表彰小委員会へ送付する。
- 5 表彰小委員会に推薦されたそれぞれの受賞候補者について、表彰小委員会で審議し、表彰小委員会委員長が決定する。ただし、受賞候補者および推薦者は表彰小委員会委員になることはできない。表彰小委員会委員長もしくは表彰小委員会委員が受賞候補者の共同研究者である場合、部会長が該当者を代行する。

(表彰時期)

第6条 再処理・リサイクル部会功績賞および再処理・リサイクル部会業績賞については、「春の年会」における部会全体会議において表彰する。

- 2 再処理・リサイクル部会優秀講演賞については、適宜表彰をおこなう。
- 3 表彰は「表彰状」を授与し、副賞を贈呈する。

(3) 部会賞表彰細則について

要承認

(その他)

第7条 本細則に規定されていない事項については、運営小委員会において協議する。

(選考結果報告)

第8条 表彰決定後、選考過程および選考結果を理事会へ報告する。

(改定)

第9条 本細則の改定は、運営小委員会の発議に基づき、部会全体会議で審議し、部会等運営委員会および理事会に報告するものとする。

(3) 部会賞表彰細則について

要承認

附則

- 1 平成24年3月21日 第21回再処理・リサイクル部会全体会議改定，同日施行
- 2 改定履歴
 - ① 平成17年12月1日 「日本原子力学会 再処理・リサイクル部会 部会表彰規程」として第7回部会総会制定
 - ② 平成24年3月21日 学会管理下の内規に変更 第21回再処理・リサイクル部会全体会議改定
 - ③ 平成27年3月22日 第28回再処理・リサイクル部会全体会議改定，平成27年4月24日 部会等運営委員会メール報告，平成27年5月21日 第8回理事会報告
 - ④ 平成 年 月 日 「再処理・リサイクル部会部会賞表彰細則」に変更
第 回再処理・リサイクル部会運営小委員会承認，平成 年 月 日 第
回再処理・リサイクル部会全体会議報告，平成 年 月 日 第 回部
会等運営委員会報告，平成 年 月 日 第 回理事会報告

附則

- 1 平成27年3月22日承認の内規は，再処理・リサイクル部会全体会議承認の日から施行する。
- 2 平成 年 月 日承認の細則は，再処理・リサイクル部会運営小委員会承認の日から施行する。

質疑、コメント等、お願いいたします。

2016秋の大会 企画セッション

核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究 ワーキンググループ フェーズ2 報告 (2016年 9月 7日(水) 13:00~14:30, H会場)

座長 池田 泰久 (東京工業大)

● 報告書概要説明

- | | | |
|--------------------|-------|---------|
| (1) フェーズ2における検討の目的 | 村松 健 | (東京都市大) |
| (2) 廃液の沸騰乾固 | 吉田 一雄 | (原子力機構) |
| (3) セル内での有機溶媒火災 | 阿部 仁 | (原子力機構) |
| (4) 臨界事故 | 山根 祐一 | (原子力機構) |
| (5) 放射線分解水素の爆発 | 石尾 貴宏 | (日本原燃) |

● 総合討論